

TOPICS  
4

トピックス…④

# 現行基本計画の進捗状況とその要因の検証

農林水産省は4月22日、食料・農業・農村政策審議会企画部会（部会長、中嶋康博東京大学大学院教授）を開催し、新たな食料・農業・農村基本計画の策定に向けた議論を行った。その中で、現行の平成22年基本計画を検証するため、事務局から、生産数量目標の進捗状況とその要因分析結果などが示された。なお、食料・農業・農村政策審議会（会長、生源寺眞一名古屋大学大学院教授）は、今後、月1回程度のペースで開催される同企画部会での議論を踏まえ、平成26年度中に基本計画の変更について答申する予定である。

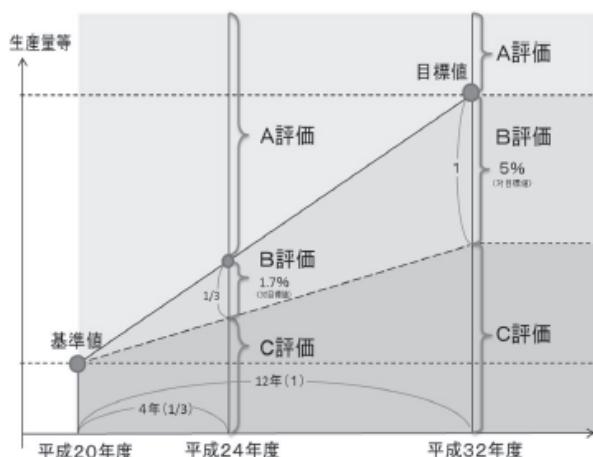
## 生産数量目標の進捗状況の評価

各品目の生産量が目標に向けて順調に推移しているかどうかを判断するため、平成24年度における進捗度を、32年度目標に対する比率（目標比率）と併せて評価した。

平成24年度の進捗度については、基準値（20年度）と目標値（32年度）を結ぶ直線に沿って推移しているかどうかで評価した。具体的には、目標に向かって推移（進捗予定値からの乖離度が0%以上）している品目を「A評価」、概ね目標に向かって推移（進捗予定値からの乖離度が0%未満～▲1.7%以上）している品目を「B評価」、目標から乖離して推移（進捗予定値からの乖離度が▲1.7%未満）している品目を「C評価」としている。

24年度は、目標年の32年度に対して基準年の20年度から3分の1が経過している。このことを踏まえて、「B評価」は、このペースで生産が推移すれば32年度目標値からの乖離度が5%以内にとどまるものとし、24年度でその3分の1の1.7%以内の品目とした。評価の結果、ほとんどの畜産物の進捗度が「A評価」である中、生乳は進捗予定値からの乖離度が▲44%で「C評価」となった。

図 生産数量目標の進捗度の評価方法



## 生乳のC評価の要因分析

平成22年の基本計画における生乳の生産数量目標は、飲用需要の減少率を抑制しつつ、需要の拡大が見込まれるチーズ向けの供給拡大により、基準年（795万トン）に対して同程度の水準を維持する目標（800万トン）を設定している。

この生産数量目標を達成するために克服すべき課題は、①チーズ向け生乳の供給拡大による輸入チーズから国産チーズへの置き換えと付加価値の高い国産ナチュラルチーズの生産体制の整備、②乳牛の生涯生産性や繁殖能力の向上、支援組織の育成・活用の推進等を基本に、飼料基盤を活用した資源循環型の経営や、加工・販売に取り組む経営など多様な経営体の育成、③消費者の多様なニーズに対応した牛乳・乳製品の普及及び商品開発による消費拡大等であった。

飲用需要の減少率の抑制と、チーズ需要の増加を見込んだ生乳生産目標の設定は適切であった。しかしながら、平成22年以降の夏季の高温等による生乳生産量の減少により、「国産チーズの生産拡大が不十分」であったこと、及び高齢化の進展や後継者不在等により離農する酪農家が増加し、飼料価格の高騰による収益性の悪化等により新規投資が抑制されている中で、「生産基盤の脆弱化に対する施策が不十分」であったことから、24年度における生乳生産実績（761万トン）は、想定していた当該年度の進捗予定値（796万トン）から44%乖離した。また、このペースで推移した場合の目標比率は95.1%にとどまる。

表 品目別生産数量目標の進捗状況評価

	H20 (基準)	H24 (現状)	H24 (進捗予定)	H24進捗度		H32 (目標)	目標比率
				乖離度	評価		
米	881	849	873	▲2.7	C	855	99.3
小麦	88	86	119	▲27.7	C	180	47.8
野菜	1,255	1,197	1,273	▲6.0	C	1,308	91.5
果実	344	303	342	▲11.4	C	340	89.1
生乳	795	761	796	▲4.4	C	800	95.1
牛肉	52	51	52	▲1.9	B	52	98.1
豚肉	126	130	126	3.2	A	126	103.2
鶏肉	140	146	139	5.0	A	138	105.8
鶏卵	254	251	251	0.0	A	245	102.4
飼料作物	436	400	466	▲14.2	C	527	75.9

資料：農林水産省「食料・農業・農村政策審議会企画部会提出資料」  
注）米は米粉用米と飼料用米を除く。